

H28年度自己評価表

青翔開智中学校・高等学校

中長期目標(学校ビジョン)	今年度の重点目標
「探究」型学習による発展的な学び実践。それを補完するためICT教育および図書教育充実を図る。学校生活におけるあらゆる場面における「探究」的な姿勢を通じ、国際社会に通用するリーダーシップを発揮できる人間を育成する。	1、教科・科目として「探究」授業のみならず、全教科指導・学習指導および学校生活全般における「探究」型学習・「探究」的姿勢実践、創造と体系化。 2、上記を円滑かつ効果的に推進するためICT教育および図書教育実践と体系化。 3、生徒と教員、保護者と連携を密にし、ともに学校を創造する。 4、国内だけでなく世界を視野にいれた進路指導をおこない自己の進路実現を目指す。

年度当初				評価結果(年度末)	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価	自己評価および次年度の主な課題
重点目標1に対応	探究学習 A. SEIKAI6.1の習得。 ・1テーマ設定2情報収集3情報分析4論文5プレゼンテーション6評価の6つのステップを理解させ、各ステップにおける基本的な手法を習得させる。 B. 探究的姿勢の習得。 ・さまざまな出来事に対して、生徒が自ら疑問を抱き、解決に向けて計画を立て実行できる力を養う。	A. 青開学会(探究発表会)の開催。 ・発表に向けた準備段階において、SEIKAI6.1の手法の習得と実践を学ばせる。 B. グループワーク ・発問を多く取り入れた双方向型授業、アクティブラーニングの実践。 ・生徒が主体的に学習し、授業参画できる授業づくりを目指す。	A. 青開学会(探究発表会)アンケートにおける、自己評価・他者評価の満足度を評価基準とする。 B. 授業アンケート、教員アンケートによるアクティブラーニング、双方向型授業、グループワークの導入60%以上を目標とする。	A. 評価B B. 評価A	A. 5点満点の評価アンケートの結果、自己評価3.93点、他者評価3.78点となり達成率60%を超えたためB評価とした。 B. 中学校導入74.0%。高等学校導入68.4%。導入目標60%に対し8割以上の達成のためA評価とした。
重点目標2に対応	ICT教育 A. iPadを用いたプレゼン資料作成。 B. 各授業におけるICT活用の推進 C. 情報モラルの習得	A. 生徒全員がiPadのアプリを用い、青開学会(探究発表会)用のスライド作成を行う。 B. 各授業でiPadのアプリやGoogleなどのサービスを使った授業を行う。 C-1. 情報モラル講演会を生徒・保護者それぞれ年1回実施。 C-2. 現行のiPad利用ルールの見直しを行い、より良いルールに改正を行う。	A. iPad使用率90%以上を目指す。 B. 授業におけるICT利用アンケートを行い、ICT活用率60%以上を目指す。 C-1. 情報モラル講演会は実施の回数により評価する。 C-2. iPad利用ルールについてはICT委員会が主体となりルール改正の進捗状況の評価とする。	A. 評価A B. 評価A C-1. 評価A C-2. 評価C	A. 生徒全員がiPadでスライドを作成を行いプレゼンを実施した。 B. 中学校導入74.0%。高等学校導入68.4%。導入が60%を超えたためA評価とした。 C-1. 講演会を生徒・保護者向けにそれぞれ1回実施した。 C-2. 本年度はルール改正の前に、生徒の情報モラル向上を目指し、ホームルームにてマナーアップ動画の放送を実施した。次年度は本年度の活動をベースにルール改正について検討する。
重点目標2に対応	図書教育 A. 生徒、教職員の充実した読書生活の提供 B. 探究学習へ図書館利用促進。そのための図書館と探究部との連携体制の整備。 C. 教科学習へ図書館利用促進。そのための図書館と各教科との連携体制の整備。 D. 図書委員会の活動充実	A. 朝読書の通年実施、図書館利用状況の共有、本に関連する行事などによって貸出冊数増加と満足度向上を目指す。 B. 探究部に司書教諭、図書館司書が参画し、探究活動での図書利用をシラバスに落とし込む。 C. 各教科会にて図書利用をシラバスに落とし込む。 D. 昨年度までの図書委員会活動をベースに新たな企画・取り組みを増やす	A. 年間貸出冊数と図書館に対する満足度アンケートの結果によって評価する。 B. 生徒アンケートを実施し「探究」での図書利用数を評価基準とする。 C. 生徒アンケートを実施し各教科での図書利用数を評価基準とする。 D. 昨年度と比較したときの企画・取り組み数の増減を評価基準とする。	A. 評価D B. 評価A C. 評価C D. 評価A	A. 全校生徒数昨年度より66名増加に対して年間貸出数は前年比227冊減。満足度アンケート未実施であった。学年毎の目標冊数の設定や、必読書設定などをおこない貸出冊数増を狙う。 B. 探究の授業における図書の利用は平均4.4。 C. 5教科・実技教科における図書の利用は中学校2.57、高等学校2.27。未実施の教科を無くすため、シラバス作成に司書を参加させる。 D. 昨年度の活動をベースとして新規企画を3件実施。
重点目標3に対応	学校創造 A-1. 生徒会組織の持続的運営 A-2. 生徒主体の学校行事を企画 A-3. 部活動の創部 A-4. 校則の改定 B-1. 保護者会(FTA)のワーキンググループ活動の活発化	A-1. 生徒会規約の作成 A-2. 職員会議にて委員会による企画提案の場を設ける A-3. 職員会議にて部活動創部提案の場を設ける A-4. 生徒主導により校則の改定を進める B-1. FTAから参加の呼びかけを行い活動への参加者増を狙う	A-1. 生徒会組織規約を確立し全校に共有を図る A-2. 生徒の企画提案を各委員会1件以上を目指す A-3. 提案数5件、実現件数3件を目指す A-4. 新校則を制定し施行することを目指す B-1. 各家庭の参加率を評価基準とする	A-1. 評価B A-2. 評価D A-3. 評価A A-4. 評価B B-1. 評価C	A-1. 生徒会規約案の作成は終了。全校への理解と共有は次年度とする。 A-2. 13委員会から4委員会から1件以上の提案あり。達成率31%のため評価Dとした。委員会の実施日数を増やし提案数の増加を狙う。 A-3. 提案8件、承認件数3件。 A-4. 新校則案の作成は終了。全校生徒と保護者からの承認待ち状態。 B-1. FTA総会参加率53%、校内清掃参加率56%、合計55%のため評価Cとした。
重点目標4に対応	グローバルキャリア教育・進路 A-1. グローバルに興味をもたせ世界で活躍できる人材の育成をめざす A-2. 英語4技能の育成を推進し英語をツールとして活用できる人材を育成する A-3. 海外修学旅行の具体化 B-1. 探究活動やグローバルキャリア教育をとおし、将来のビジョンを明確にした進路を考える生徒を育成する。 B-2. 選択した進路を実現する	A-1. グローバルに関連した講演会やイベントを実施する A-2. Skypeなどのオンラインサービスをもちいた英会話学習教材の導入をおこなう A-3. 学校、生徒、保護者間で検討会議をもち海外修学旅行の実現へむけ検討をおこなう B-1. 探究部と進路部が連携し、探究学習の結果を活用した個別の進路指導をおこなう B-2. 予備校などの外部講師とも連携し学力向上を目指す。	A-1. 年間3回の実施をおこなう A-2. 導入後の生徒満足度を評価基準とする A-3. 海外修学旅行の詳細(時期、行き先、内容、費用)が確定すること B-1. 卒業時の進学アンケートにおける進路満足度を評価基準とする B-2. 卒業時の進学アンケートにおける進路実現度を評価基準とする	A-1. 評価A A-2. 評価B A-3. 評価A B-1. 未実施 B-2. 未実施	A-1. 年間11回の講演会やイベントを実施。 A-2. 生徒満足度3.63(5段階)、72.6%の満足度がえられた。6割以上の達成とみなし評価Bとした。 A-3. 平成30年度高校1年生からの海外修学旅行の行き先詳細はほぼ決定。 B-1. 未実施のため評価できず B-2. 未実施のため評価できず

評価基準 = A:ほぼ達成(8割以上) B:概ね達成(6割以上) C:変化の兆し(4割以上) D:不十分(4割未満)